医学モデル・コア・カリキュラム キャッチフレーズ（案）

資料1

医学・歯学・薬学 共通
「未来の社会や地域を見据え、多様な場や人をつなぎ活躍できる医療人の養成」

今回の改訂は、「未来の社会や地域を見据え、多様な場や人をつなぎ活躍できる医療人の養成」を目指して医学・歯学・薬学教育の３領域で統一的に取りまとめた。

近年、人口構造の変化、多疾患併存、多死社会、健康格差、医師偏在、増大する医療費、感染症の危機等様々な問題に直面し、これらの社会構造の変化は、年を経るにつれ更なる激化が見込まれている。このように社会に多大な影響を与える出来事を的確に見据え、多様な時代の変化や予測困難な出来事に柔軟に対応し、生涯に渡って活躍できる医療人の養成が必須である。

そのためには、医療者としての根幹となる資質・能力を醸成し、多職種で複合的な協力を行い、多様な社会の変化の中で活躍することが求められる。さらには、ビッグデータやAI を含めた医療分野で扱う情報は質も量も拡大・拡張しており、これらを適切に活用した社会への貢献も求められる。

これらを教育面から具現化するため、医師として求められる基本的な資質・能力の変更、医学・歯学・薬学の教育内容の一部共通化及び医師養成をめぐる関連制度（共用試験の公的化及び医学生の医業の法的位置づけの明確化、国家試験出題基準、臨床研修到達目標等）との整合性を担保するための方策を具体化することとし、卒前・卒後の一貫したシームレスな医師養成の更なる推進を図る。

また、平成28年度改訂版医学教育モデル・コア・カリキュラムより、アウトカム基盤型教育を骨組みとしているが、今回の改訂では更なる深化を図り、質保証の観点から改革を進めることを企図する。

※青字箇所は、医学と歯学で異なる内容を記載。

※令和３年10月21日時点であり、青枠内の文章は調整中。

歯学モデル・コア・カリキュラム キャッチフレーズ（案）

医学・歯学・薬学 共通
「未来の社会や地域を見据え、多様な場や人をつなぎ活躍できる医療人の養成」

今回の改訂は、「未来の社会や地域を見据え、多様な場や人をつなぎ活躍できる医療人の養成」を目指して医学・歯学・薬学教育の３領域で統一的に取りまとめた。

近年、人口構造の変化、多疾患併存、多死社会、健康格差、増大する医療費、感染症の危機等様々な問題に直面し、これらの社会構造の変化は、年を経るにつれ更なる激化が見込まれている。このように社会に多大な影響を与える出来事を的確に見据え、多様な時代の変化や予測困難な出来事に柔軟に対応し、生涯に渡って活躍できる医療人の養成が必須である。

そのためには、医療者としての根幹となる資質・能力を醸成し、多職種で複合的な協力を行い、多様な社会の変化の中で活躍することが求められる。さらには、ビッグデータやAI を含めた医療分野で扱う情報は質も量も拡大・拡張しており、これらを適切に活用した社会への貢献も求められる。

これらを教育面から具現化するため、歯科医師として求められる基本的な資質・能力の変更、医学・歯学・薬学の教育内容の一部共通化及び歯科医師養成をめぐる関連制度（共用試験の公的化及び歯学生の歯科医業の法的位置づけの明確化、国家試験出題基準、臨床研修到達目標等）との整合性を担保するための方策を具体化することとし、卒前・卒後の一貫したシームレスな歯科医師養成の更なる推進を図る。

また、平成28年度改訂版歯学教育モデル・コア・カリキュラムより、アウトカム基盤型教育との関連を見据えることとしているが、今回の改訂では更なる深化を図り、質保証の観点から改革を進めることを企図する。

※青字箇所は、医学と歯学で異なる内容を記載。

※令和３年10月21日時点であり、青枠内の文章は調整中。

【参考】平成２８年度改訂版モデル・コア・カリキュラム キャッチフレーズ

医学：多様なニーズに対応できる医師の養成

歯学：多様なニーズに対応できる歯科医師の養成

今回の改訂は、「多様なニーズに対応できる医師の養成」を目指して取りまとめた。

これは、国際的な公衆衛生や医療制度の変遷を鑑み、国民から求められる倫理観、医療安全、チーム医療、地域包括ケアシステム、健康長寿社会などのニーズに対応できる実践的臨床能力を有する医師を養成することを意識したものである。

そもそも医師は、住民の求めに応じた医療や在るべき医療を志向すべきものであり、仮に臨床医とならない場合であっても、その基盤となる研究や行政等の立場での社会貢献を志向すべきである。

また、同様にこれらの視点から、医学教育及び医療行政が両輪として医学生や医師を支えるべきものである。

これを教育面から具現化するために、従来進めてきた学修成果基盤型教育（卒業時到達目標から、それを達成するようにカリキュラムを含む教育全体をデザイン、作成、文書化する教育法(outcome-based education <OBE>)）を骨組みとし、学生が卒業時までに修得して身に付けておくべき実践的能力を明確にして、客観的に評価できるよう示した。これは、モデル・コア・カリキュラムが、単なる修得すべき知識のリストではなく、修得した知識や技能を組み立てられる医師にいかに育成していくかに重点が移行してきたことを、本改訂において明確にしたことを意味する。